

(様式6)

視 察 報 告 書

令和8年6月25日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 建設水道委員会
委員長 加藤 茂樹

本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

1 期 間	令和8年4月15日から令和8年4月17日
2 派 遣 先 及び視察 (調査) 内容	<鹿児島県鹿児島市> ○歩いて楽しめるまちづくり推進事業 (市街地再開発事業含む) ・取組の内容及び経過について ・効果及び今後の方針・課題について ○地域主体型コミュニティ交通運行支援モデル事業 ・取組の内容及び経過について ・効果及び今後の方針・課題について <福岡県福岡市> ○A I による水道管の劣化状況調査・分析について ・取組の内容及び経過について ・効果及び今後の方針・課題について
3 派遣委員 の氏名	加藤 茂樹、谷口 明子、加藤 貴志、足立 考史、 太田 縁、寺坂 寛夫
4 委員会所見	別添のとおり
5 参加者所見	別紙のとおり

所見

鹿児島県 鹿児島市	○歩いて楽しめるまちづくり推進事業 (市街地再開発事業含む) ・鹿児島市は人口も多いですが、人口密度が鳥取市の4.4倍。これは米子市等と同レベルで市街地がコンパクトにまとめられており、平日の昼間にもかかわらずたくさんの人で溢れていて街全体で賑わいを感じる事ができました。そして住民の満足度が高い街づくりを目指すためには地域住民、地元企業、行政との密接な連携が不可欠であると改めて感じました。 ・4月16日朝、宿泊先のホテルから少し足を延ばして街並みを散策しましたが、桜島行きのフェリー乗り場周辺には水族館や文化財なども配置されており、観光客に長時間滞在してもらう仕掛けが形成されています。鳥取市に置き換えた場合も規模感こそ違いがありますが、回遊性を高めていくためには様々な視点に立って街に細かい仕掛けを考えていく事も重要ではないかと強く感じた視察でした。 ・新幹線部分開通した平成16年にJR鹿児島中央駅が出来たことを契機に鹿児島市の再開発が大規模に始まりました。当然、従前から営みをされている住民、住まいとされている生活エリアを巻き込む再開発として、「都市再開発法」に基づき取り組まれた一体化事業をご教授頂き、行政側の担当職員がしっかりと住民に寄り添い、将来に向けての不安材料を払拭され、再開発の為の準備として住民側に合意形成として組合・協議会の設立に多大なご苦勞をされたことが伝わった。 ・再開発された街なかのメイン通りを走る路面電車の路面は、芝生が敷き詰められ、これまでに見たことのない、きれいな町並みを形成されていたことに感動した。 ・観光の目玉の1つである「桜島」に渡る港と「錦江湾」が望めるウォーターフロント地区（JR鹿児島駅周辺、旧市街地）の再開発も進めながら、歩いて楽しめる街に訪れた観光客が、再開発（3地区）を楽しみながら移動できる動線を拡充することで目指されている滞在型観光にする目的の説明に鹿児島市の活力を感じた。 ・鹿児島市では、鹿児島中央駅から天文館、本港区、さらには鹿児島駅までのエリアにおいて、にぎわいとゆとりある都市空間を創出するため、様々な再開発事業や歩いて楽しめるまちづくり関連事業等に取り組まれており、官民連携として、市と民間まちづくり団体とUR都市機構による連携体制と協働によるイベント実施など、歩いて楽しめるまちづくりの推進に取り組まれており、素晴らしい取り組みであった。中でも建物の老朽化などにより、市街地再開発事業としての土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図る事業の取り組みとして、建物の一体的な利用とした大規模な高層建物建築への市街地の再開発に数多く取り組まれており、中心市街地へつなぐ持続可能なまちづくりが一体的に行われているなど、非常に感心するものであった。
--------------	--

・本市においても鳥取駅周辺再整備の事業が進んでいますが、今回の鹿児島市は、大変参考になるものと感じました。その鳥取駅周辺再整備で進んでいる様々な事業が、この視察でお聞きした鹿児島市の事業が具体的にどのように参考になるものかを、私自身研究し、本市にどう生かせるものかを考え、本市の事業を推進していきたいと思いました。

・今回宿泊したホテルを含んだ、再開発の事業の複合施設は特に参考になりました。本市の状況に適合し、市民の様々な方面の方と意見交換した内容を包含して、本市においてもこの鹿児島市の複合施設と同様なものが実現できればと思いました。

しかし、人口が本市とかなり違いがあるため、鹿児島市を参考とした本市での実現は難しいと考えますが、そこをどう工夫して取り入れるかが課題だと感じました。

・鹿児島市の「まちなか建替え等推進事業」が令和7年12月から始まっているとお聞きし、今後の推進状況をお聞きしたいと思えますし、成功すれば、本市でも、この事業を参考にして推進したいと感じました。

・この市街地再開発事業の効果で、市民アンケート結果が、いずれも高評価であり素晴らしいと感じました。

・市街地再開発事業の実績は8事業である。推進体制は、市と県が連携しつつ事業施行者（地元・地権者組織・準備組合・再開発組合・等）と取り組んでおられる。8事業、それぞれ官民連携して考えられ、創りあげられた建物であり事業であると感じました。

・全国で中心市街地活性化の取り組みは進められているが、鹿児島のように大規模かつ民間と行政が密接に連携した事例は少なく、そのスケールは際立っている。桜島の景観を活かしたまちづくりに加え、海の玄関口である鹿児島港と連携した新たな事業が展開され、回遊性向上の整備も進められている。また、市内には約128カ所の温泉施設が存在し、その資源の豊富さは特筆に値する。今後は観光電車やまち歩きを通じて、地域の魅力はさらに高まっていくと考えられる。鹿児島市役所の本館は1937年（昭和12年）に完成。国の設計により、戦前に建てられた歴史的建造物で現在も使用されていると説明を受けた。感動的であった。

○地域主体型コミュニティ交通運行支援モデル事業

・市内は移動手段として鉄道、バス、タクシーのほか路面電車も走っており、鹿児島中央駅から市役所、繁華街である天文館地区や観光地の桜島までの移動も非常にスムーズであり、街の活性化には観光客がお金を落とす動線や仕掛け、モビリティの発展も重要な要素であると感じました。

・桜島のボランティア運送事業の実態から本市に適する事業なのか悩ましいような気がした。本市は、過疎化した地域が広範囲に点在し、それぞれの地域も高齢化が進み、ボランティア運送のドライバーに登録される方が年齢も心配になる状況と思う。ボランティア運送事業の利点が活

かされそうな総合支所もあるかもしれない。今後、調査研究をされ、適当と思われる地域で実証されもいいのではないかと思います。

- ・高齢者の増加や免許返納など、本市もそうであるが全国的にも進んでおり、交通弱者は増えてきている。買い物や病院への通院のための交通手段の確保は急務となっている。

- ・鹿児島市では、桜島地域を対象とした、地域が主体となって取り組む互助によるマイカーでの運送、「ボランティア運送」の運営・運行に係る経費（運転者講習費用、自動車保険料、利用者調整に係る人件費）の一部を補助事業に取り組んでいたが、利用状況は多くはないようであった。本市では、買い物難民への支援策として移動販売車の導入に取り組んでいますが、病院への通院などの交通弱者は数多くあり課題であると認識している。地域が主体となって取り組む、この互助運送ですが、今後の本市の交通弱者への対策として1つの方法であると考えてるが、地域住民の説明や協議会設立など、本格運行へは準備・検討や協議調整などが必要で時間と年数がかかる取り組みでもある。

- ・今回お聞きした、桜島地域ボランティア運送事業は、運用が高齢者の方でもわかりやすく、利用しやすいものであると感じました。

- ・成功のカギは、なにより、中心となる方が重要で、その熱量、使命感、やり遂げるという思いが大切だと感じました。

- ・本市の共助交通において、参考になるところがあるのではと感じ、本市の共助交通を初め、交通政策に通じるものがあれば、推進のための一助となればと思います。

- ・この事業は、交通政策だけでなく、地域のコミュニティー醸成にも寄与するものであると感じ、本市でも取り入れることができるところかないか、研究していきたいと感じました。

- ・鹿児島市さんが、ボランティア運送に実際取り組んでいるのは桜島地域のみである。

- ・ボランティア運送は鹿児島市において限定的で、全市的な広がりは考えていないようであった。

- ・桜島地域のボランティア運送事業では、コミュニティ協議会が運営主体となり住民同士の助け合いによる相乗り型運行を実現している。申込手段も電話・LINEを併用するなど、アナログとデジタルを柔軟に使い分け、高齢者にも対応できる工夫がされていると感じた。

- ・利用者負担は実費の半額とし、低廉で利用しやすく設定されており、住民の生活圏の維持、地域福祉の向上に貢献する取り組みであると感じた。

	・今後、このような事業、取り組みが全国的に増えていくものと思う。 ・全国各地において車中心社会が進行する中、少子高齢化の影響により、高齢者をはじめとした自動車を運転できない市民にとって公共交通は不可欠な移動手段となっている。しかし現状では、JR 在来線の赤字路線の廃止や、バス路線の維持困難が進行しており、地域の移動環境は厳しさを増している。こうした状況の中で、本事例は桜島という特殊な地理条件と、地域住民の高いボランティア意識によって成立しており、その取組には深い敬意を抱くものである。地域の実情に応じた移動支援の一つの有効なモデルであり、鳥取市においても参考とすべき考え方であるといえる。特に、幹線バス路線および鉄道網の維持とあわせて、日常生活において ドア・ツー・ドアで移動できる補完的な交通手段の導入を検討すべきである。人の移動は単なる移送手段ではなく、健康の増進、地域内交流の拡大、まちの活性化に直結する重要な要素である。この視点を軽視してはならない。鳥取市においても、人々の移動手段の確保は喫緊の課題であると明確に認識される。今後は地域特性を踏まえた持続可能な移動支援の仕組みを構築することが求められる。
福岡県 福岡市	○A I による水道管の劣化状況調査 ・福岡市水道局では DX 技術を利用した水道管の漏水診断、老朽化診断という先進的な事例について説明していただきました。これからの時代 DX 活用によっていかに時間・コストを削減していくのが重要になりますが、AI の信頼性についてはまだ発展途上であり、福岡市のように従来の方法と組み合わせる事で安全かつ効率的な取り組みをこれから様々な分野で検討していく事が必要であると考えます。 ・人口減少・少子高齢化社会に歯止めがかからない現状では、人材不足・後継者不足が社会問題となっている。さらに全てのインフラが老朽化の問題に直面している。その対策に A I ・人工衛星のデータを活用し、将来を見据えた取組に感銘を受けた。 ・国交省の環境ビックデータや企業の所有する人工衛星で取得した土壌腐食データと水道局のこれまでの蓄積された配管腐食リスク・40 年耐用年数を迎える配管の更新・漏水事故のエリアを地図に落とし込み、事故の起きやすい順位を予測し計画を立てる取り組みがなされているなどの官民連携による A I 活用は有効と思う。 ・福岡市には、全国で唯一の一級河川を有していないことから、福岡地区水道企業団を構成され、県外に流れ込んでいる河川からの取水、浄水処理と海水淡水化センターで生産した水を水道水として供給していることは、現在、関東地方で現実になっている渇水問題が本市に無関係とは言っておられません。将来に向けて転ばぬ先の杖として対策を講じておくべきと感じた。 ・人工衛星による土壌調査では、春夏の水分を含む季節と秋冬の乾燥時期とではデータが不安定とのことで、本市の湿地土壌では漏水リスクエリアを特定するには適さない問題があったが、これからの人材不足時代に

備えるべきと感じた。

・ A I 診断によるリスク管理は、有効であり、データの積み重ねで精度が向上はしていくことは、将来のアウトプットに有効ではあるが、漏水のピンポイント検出には、音聴調査以外には無いと証明されている。特殊技術の継承は今後も必須である。人材育成には注力を欠かさないようにすべきと思う。

・ 従来の評価は腐食性による地区分けの面での調査だったが、新しい手法は、AI 技術を活用することで、管路毎に精度よく老朽度評価を行う手法を、検討することができている。管路毎による点での評価が可能となったこと、また、実証実験を通じて十以来より老朽度評価の精度が高いことや各事業者の特徴等を把握できたとのことで、今後も、本技術を活用することで、漏水の可能性が高い管を正しく把握し、耐震性や重要度等を合わせて検討することで、より効果的な更新計画の立案につなげられるとのことであった。

・ 我が市の水道局においては、来年度くらいから、この AI を活用しての老朽管の診断や劣化状況調査に取り組みたいようですが、この報告書に書いてあるように、必要性を十分に理解して積極的に早期導入へ向けて調査実施に着手して頂きたい。

・ 水は、生活していく上で当たり前になくてはならないものであります。福岡市は元々、市域内に一級河川を有しておらず、市外からの給水に頼らざるを得ない状況にあり、大渇水を 2 度経験し、限りある水資源を有効活用しなくてはならない状況であるからこそ、漏水対策に重きを置かれているということです。そのための先進技術、仕組みを追及しておられ、それが今回お聞きした水道事業であることを知り、この取組、そして先進事業に深く感動しました。

・ 今回お聞きした DX を活用した漏水調査、AI を活用した老朽度診断を実現されている背景に、「mirai@連携スタートアップ公共調達サポート事業」（先端技術公共調達サポート）という仕組みがあったことを知り、本市では、どのようになっているのか確認しようと思いました。もし、本市でもそのような仕組みがあれば、こういった DX、AI を利用した事業が推進できればと感じました。また、そのような仕組みが本市に無いようであれば、この水道事業のみならず、様々な分野での活用が可能となる仕組みであると思い、まずは本市でのこのような仕組みづくりが必要ではないかと考えました。

・ 本市の水道事業における、配水管の現状、漏水の現状、その調査の現状、それに伴う老朽度診断の現状を、まずは私自身、知らなくてはならないと思いました。

・ 福岡市の市民性は、開放的で新しいものを受け入れやすく、同時に実利性や合理性を重視する点に特徴がある。古くから大陸交流の拠点として発展してきた歴史を背景に、外部文化への適応力も高いとされている。

また、祭りなどの地域行事への参加意識も強く、まちは常に活気にあふれている。

・今回の水道局の視察を通じて、福岡市の水道事業における高度な管理手法や危機対応の考え方を学ぶことができた。その過程で博多駅周辺の再整備の状況も確認する機会があり、都市機能の更新と一体となったまちづくりの進展を実感した。さらに、歴史的景観の町並み整備についても実際に見る機会があり、都市の歴史と現代的整備が調和している様子を確認できた。

・私自身は何度も福岡を訪れているが、今回改めて現地を視察することで、その都市整備の考え方や事業推進の手法に一層の理解を深めることができた。規模は異なるものの、その整備思想や仕組みは鳥取市にとっても参考になると感じた。今後の都市づくりに生かすべき点は多い。また、一人でも多くの議員や執行部と同行し、現地を直接確認できたことは有意義であった。

・今日において、各分野においてA Iの活用がささやかれている現状を鑑み人の力の必要性を忘れてはならないと考える次第であります。